



ご あ い さ つ

日本藻類学会長 吉田 忠生

昨年の会長選挙で日本藻類学会の会長に推薦され、二年間この仕事をさせていただくことになりました。

昭和27年(1952)に山田幸男先生をはじめ35名の発起人の呼びかけで発足した日本藻類学会は、はじめは同好会的なもので、会誌「藻類」もA5版で年3回、総ページ100ページ足らずのものでした。その後、徐々に学会として組織も整備されて、昭和48年(1973)からは年4回発行となり、また昭和51年(1976)から編集委員制度も発足し、英文論文を掲載するようになって学術雑誌としての形式を整えてきました。第26巻からはB5版となり、文部省学術定期刊行物補助金を受けるようになり、現在では会員が700名を越え、発展してきました。昭和52年(1977)からは学会としての独自の大会を開催することになり、年々盛会になっています。

前任の有賀会長を中心として若手の会員により日本藻類学会の改革が企画され、学会誌を英文の *Phycological Research* と和文誌の「藻類」に分けて刊行すること、学会事務を中西印刷に委託しないことなど、いくつかの重要な変更が決定されました。これらが1995年から実行に移されることになり、すでに活動が開始されています。会誌の充実は質の高い論文が掲載されることによってのみ達成されるものであり、これは会員の皆様の努力にかかっているのですから、いっそうのご協力をお願いします。

また、このような改革を成功させるには、財政的な基礎を確立することがもっとも重要な課題です。すでにさまざまな方法で収入を増加する方策が採られていますが、さらに努力が必要です。

多種多様な分類群を含む藻類に関心を持つ、様々な分野の人たちが集まる日本藻類学会の更なる発展のためにこれからも微力を尽くしたいと存じます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。
